

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (5) 役職員数

— 信用金庫の女性職員比率は 42.4% に上昇 —

ポイント

- 全国 254 信用金庫の常勤役職員数は、長期的に減少傾向にあり、2022 年度末、23 年度末と 2 年連続で 10 万人を下回り、23 年度末には約 9.7 万人となった。1994 年度末には 16 万人を超えていたので、この 30 年弱で約 4 割減少したことになる。
- 男女別にみると、23 年度末には、男性が約 5.4 万人、女性が約 4.0 万人となっている。男性職員の減少が続く一方、女性職員は 06 年度以降 21 年度末までほぼ増加してきた。
- 信用金庫職員に占める女性比率は上昇を続け、23 年度末には 42.4% となった。全産業の平均以上のスピードで、女性職員の活躍の場が拡大しているといえる。個々の信用金庫においては、制度整備などが一層求められてくるだろう。

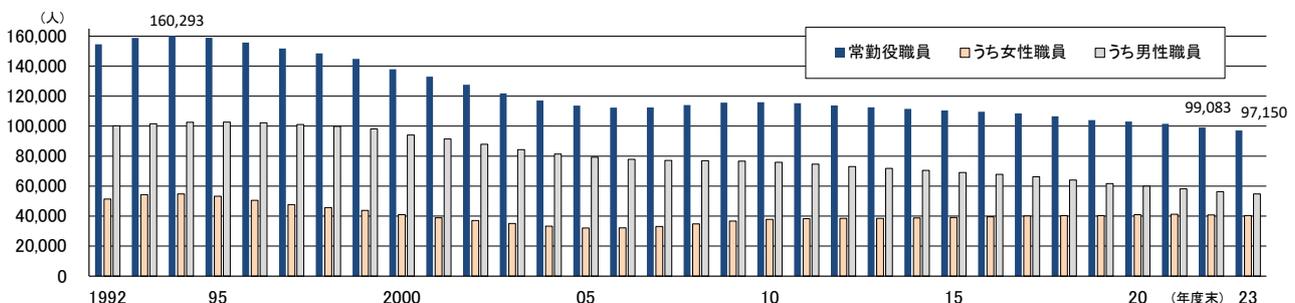
1. 信用金庫の役職員数の長期推移

本稿では、信用金庫の常勤役職員数(常勤嘱託等を含み、パート・アルバイト等は含まない。)の長期推移を確認する。

全国 254 信用金庫の常勤役職員数の合計は、長期的に減少傾向にあり、2022 年度末、23 年度末と 2 年連続で 10 万人を下回った(図表 1)。信用金庫の合併など再編が進んだ 2000 年代前半までは減少スピードが速かったが、リーマンショック(08 年 9 月)後の不況期には退職者の減少もあり一時期増加に転じていた。その後、11 年度以降は再び減少が続き、23 年度末には約 9.7 万人となった。1994 年度末には 16 万人を超えていたので、この 30 年弱で約 4 割減少したことになる。

この間の店舗数の減少は約 17% なので、多くの信用金庫では店舗機能の再編、人員体制の見直しによる省人化を進めることによって、店舗網の維持に努めてきたといえる¹。

(図表 1) 信用金庫の常勤役職員数の長期推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

¹ 信用金庫の店舗動向については、次の「ニュース&トピックス」を参照

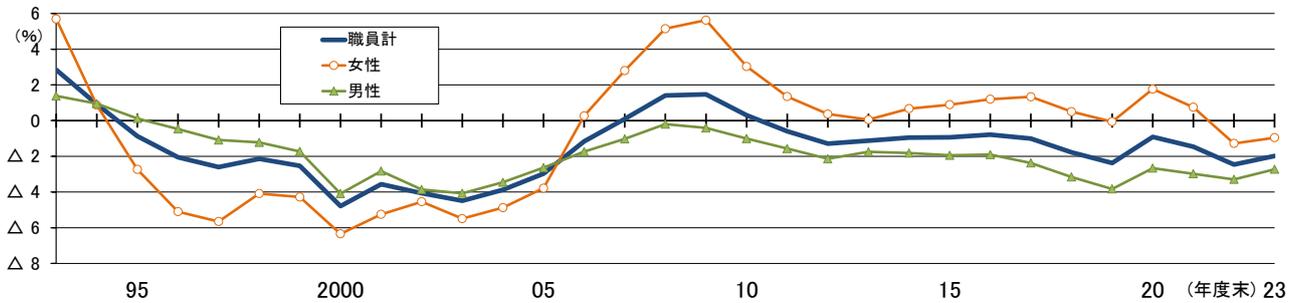
・ニュース&トピックス No.2024-32 「データで読み解くこれからの信用金庫経営 (1) 店舗」

・ニュース&トピックス No.2024-33 「データで読み解くこれからの信用金庫経営 (2) 店舗内店舗」

2. 男女別職員数の推移

男女別に職員数をみると、23年度末には、男性が約5.4万人、女性が約4.0万人となっている。男女別の増減率の推移をみると、男性職員は、96年度以降、減少が続いている(図表2)。一方、女性職員は、06年度以降21年度末まではほぼ増加を維持してきた。女性職員の増減率は、06年度末以降は男性職員の増減率を上回る状況が続いている。

(図表2) 男女別職員数の前年度末比増減率の推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

3. 女性職員比率の上昇と女性の活躍

男性職員の減少が続く一方で、女性職員は増加または小幅な減少にとどまったことから、信用金庫職員に占める女性比率は上昇を続け、23年度末には42.4%となった(図表3)。

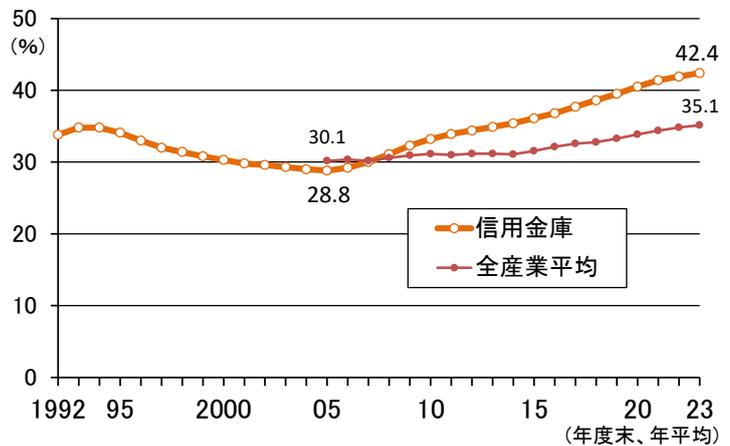
全産業平均の女性比率と比べると、かつては信用金庫が全産業平均をやや下回っていたが、その後は信用金庫の上昇スピードが速く、直近では約7ポイント上回っている。

信用金庫においては、全産業の平均以上のスピードで、女性職員の活躍の場が拡大しているといえる。

近年は、渉外担当だけでなく融資担当や副支店長クラスでの女性登用も珍しくなく、今後は支店長や本部の部長となる女性も増えていくと考えられる。

個々の信用金庫においては、ロールモデルやキャリアパスの提示のほか、出産、育児、介護などが不利とならない制度整備などが一層求められてくるだろう。

(図表3) 女性比率の推移



(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 全産業平均は、「労働力調査結果」(総務省統計局)より雇用者のうち正規の職員・従業員の年平均実数から算出

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。